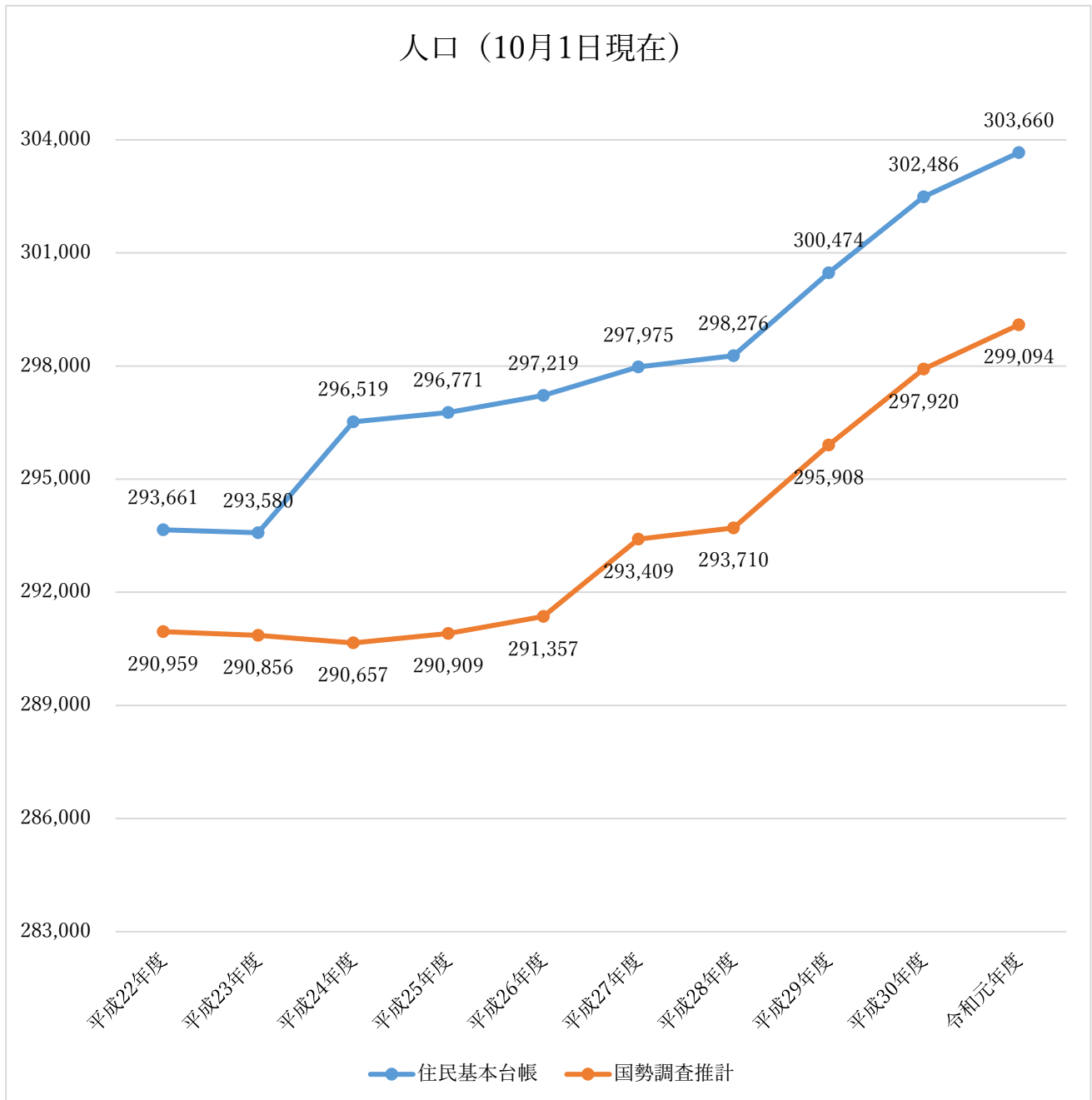


ごみ排出量・処理量の実績

1. 人口

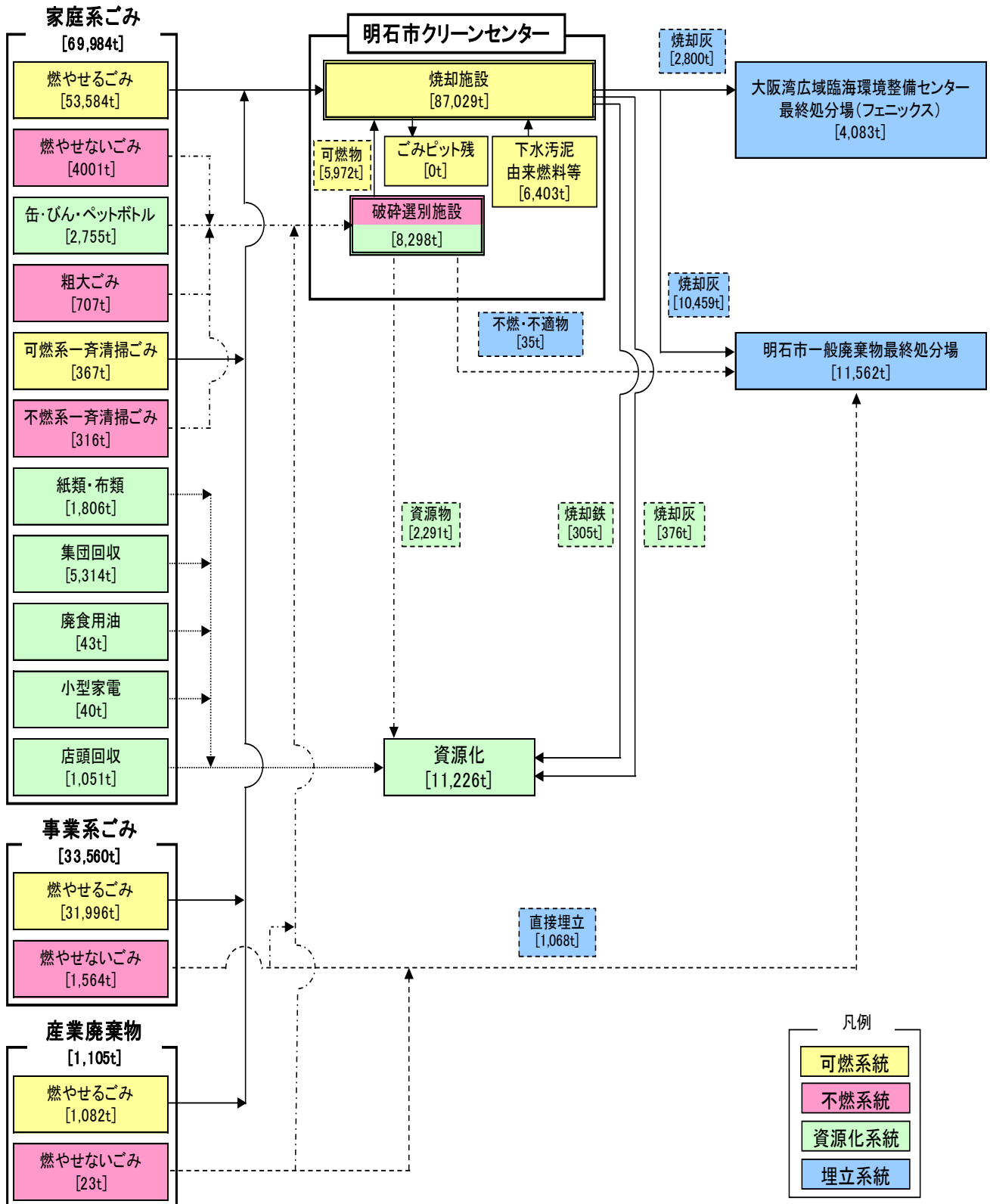
本市における人口は、住民基本台帳によると概ね約 293,000～303,000 人で推移しており、この10年間に 約 10,000 人増加しています。



※国勢調査推計・・・直近の国勢調査人口に住民基本台帳による人口の増減を加えて算出しています。

2. ごみ処理の流れ

本市のごみ処理の流れ及び令和元年度の実績値は次のとおりです。

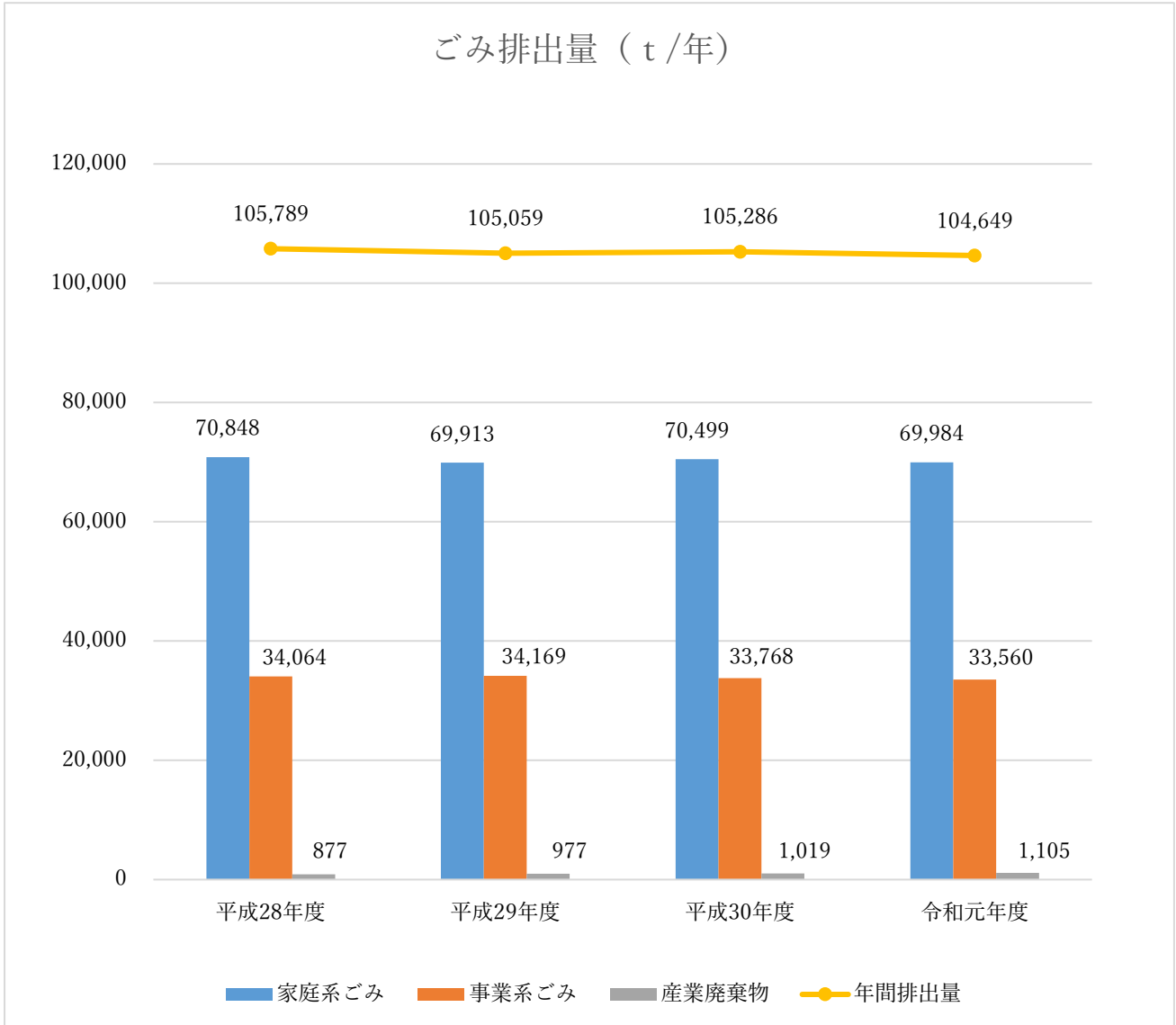


3. ごみ排出量

(1) 総ごみ排出量

ごみ排出量は、総ごみ量を見ると減少傾向を辿っています。

一方、排出別に見ると、「家庭系ごみ」は増減を繰り返しており、「事業系ごみ」は、増加傾向を示した後、減少傾向に転じています。また、「産業廃棄物」は増加傾向にあります。



(2) 家庭系ごみ

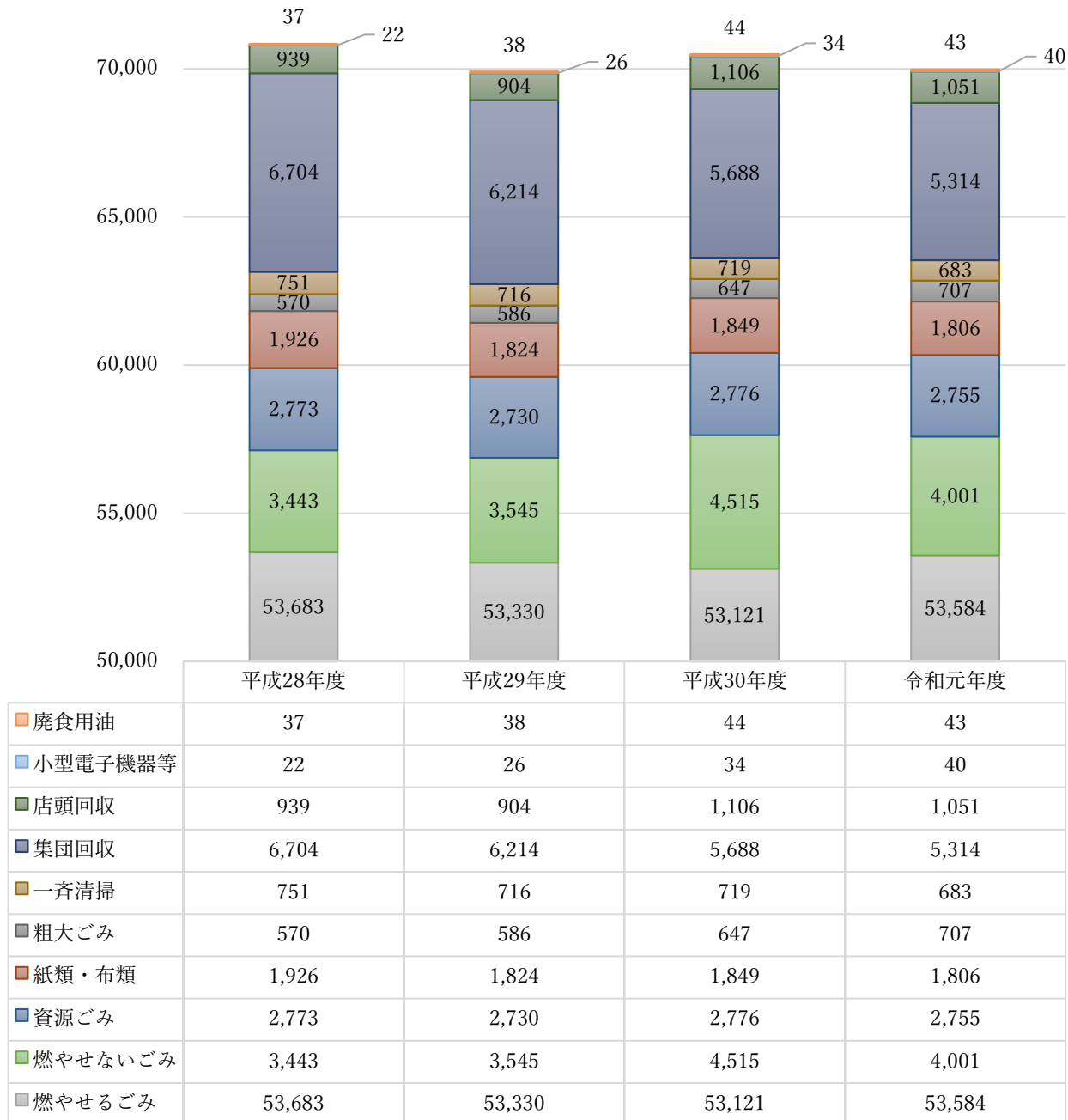
①家庭系ごみの内訳

家庭系ごみは、全体を見ると増減を繰り返しており、令和元年度では、69,984t/年となっています。

一方、分類別に見ると、「紙類・布類」「一斉清掃」「集団回収」は、減少傾向を「小型電子機器等」「廃食用油」は増加傾向をそれぞれ辿っており、その他は増減を繰り返しています。

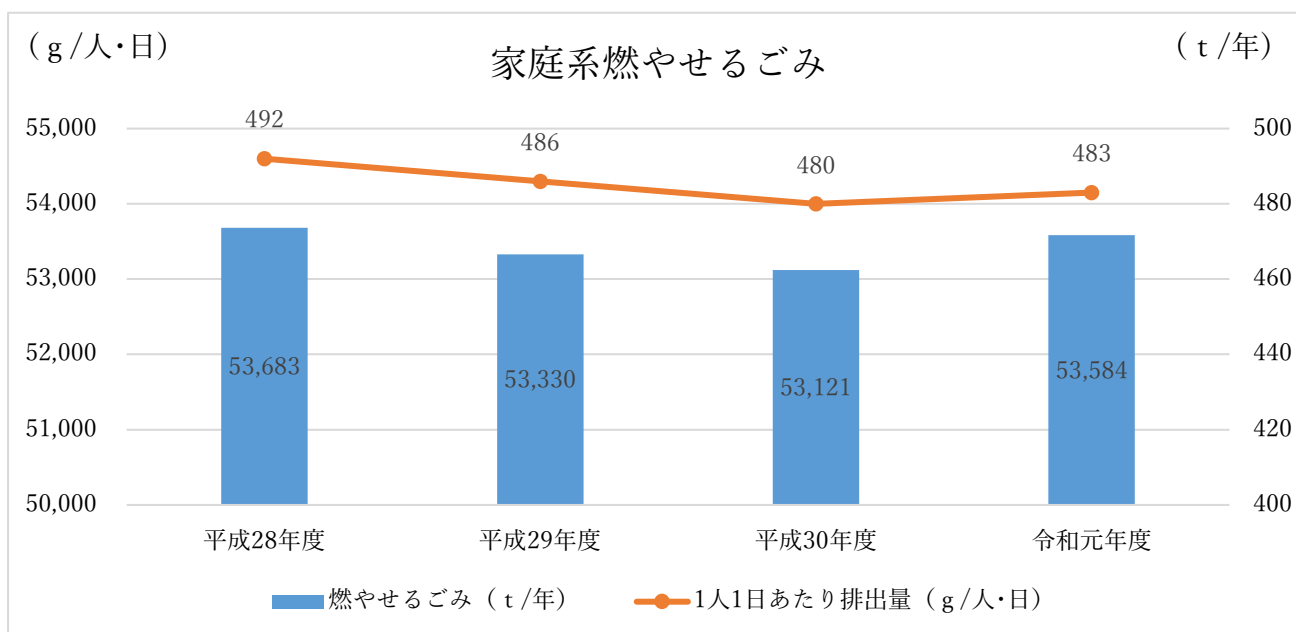
また、家庭系ごみは、「燃やせるごみ」が7割以上占めています。

家庭系ごみの内訳（t/年）



②家庭系燃やせるごみ

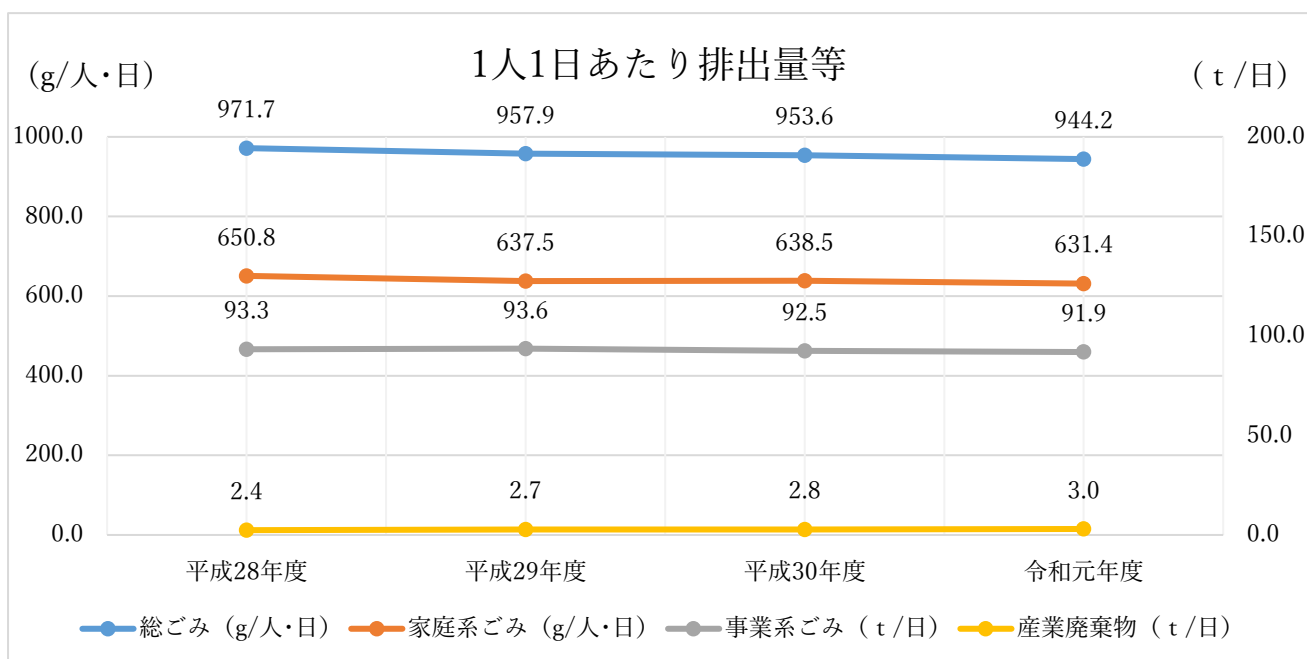
家庭系燃やせるごみの排出量及び1人1日当たり排出量は、減少傾向を示した後、増加に転じています。



4. 排出原単位(1人1日当たり排出量等)

排出原単位は、全体を見ると減少傾向を辿っており、令和元年度では約944g/人・日となっています。

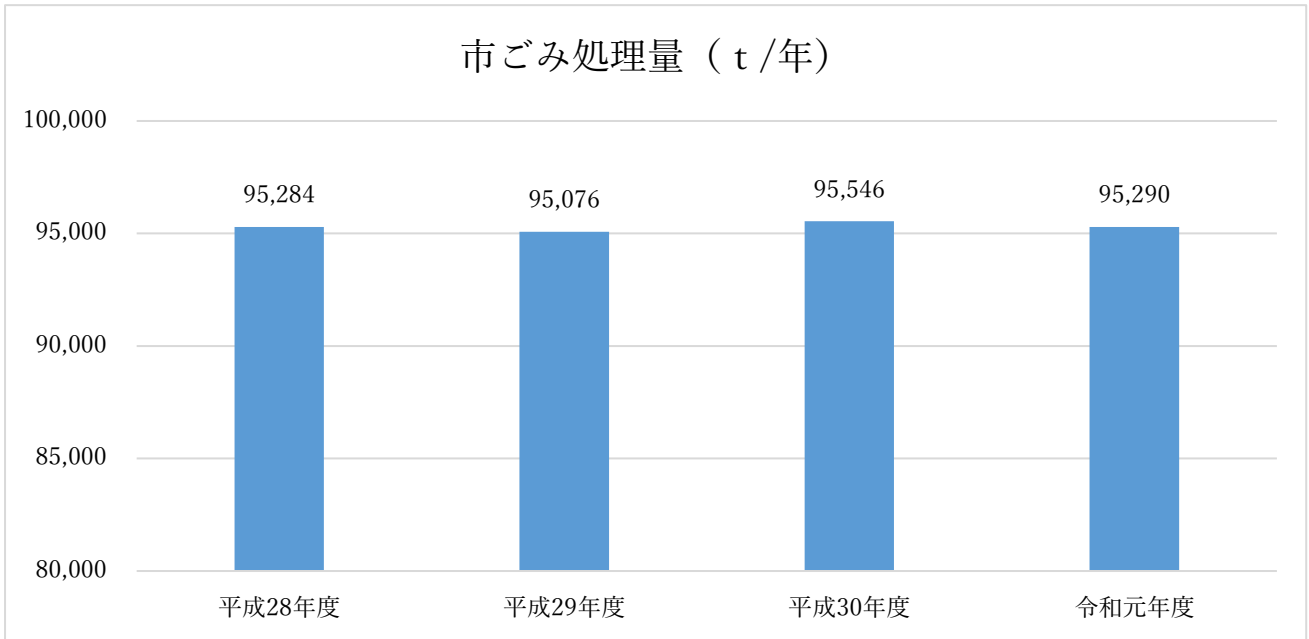
一方、排出別に見ると、「家庭系ごみ」、「事業系ごみ」は減少傾向を辿り、「産業廃棄物」は増加傾向を示しています。



5. 処理量

(1) ごみ処理量

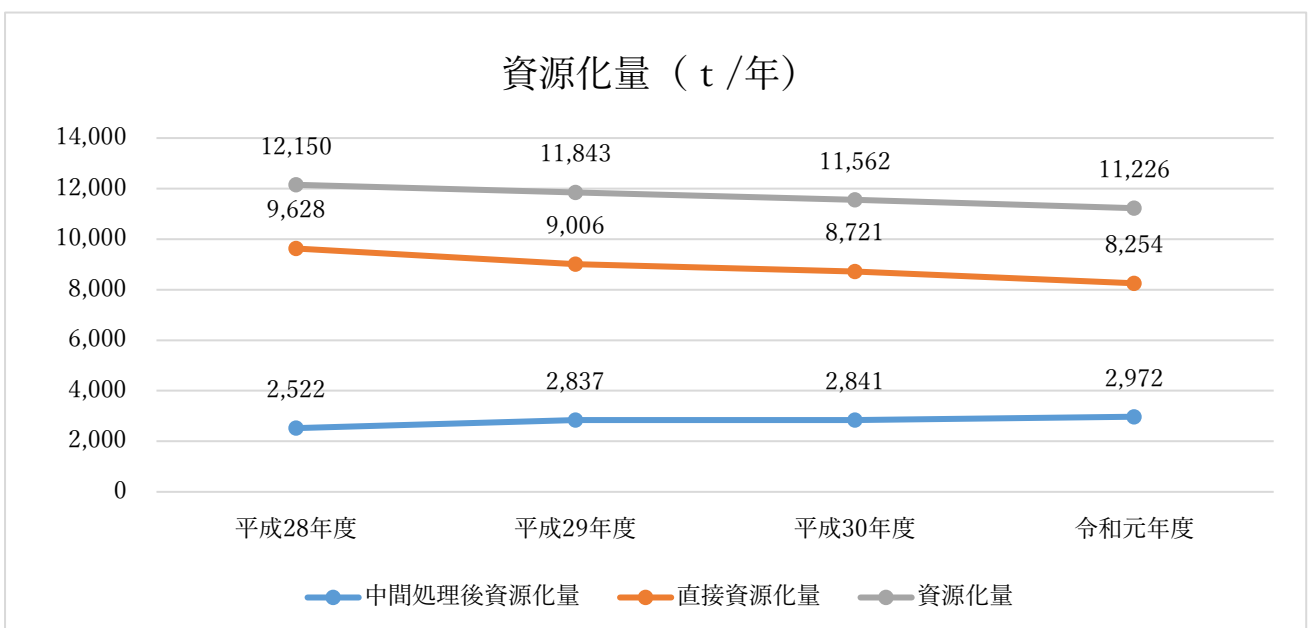
市ごみ処理量は、増減を繰り返しています。



(2) 資源化量

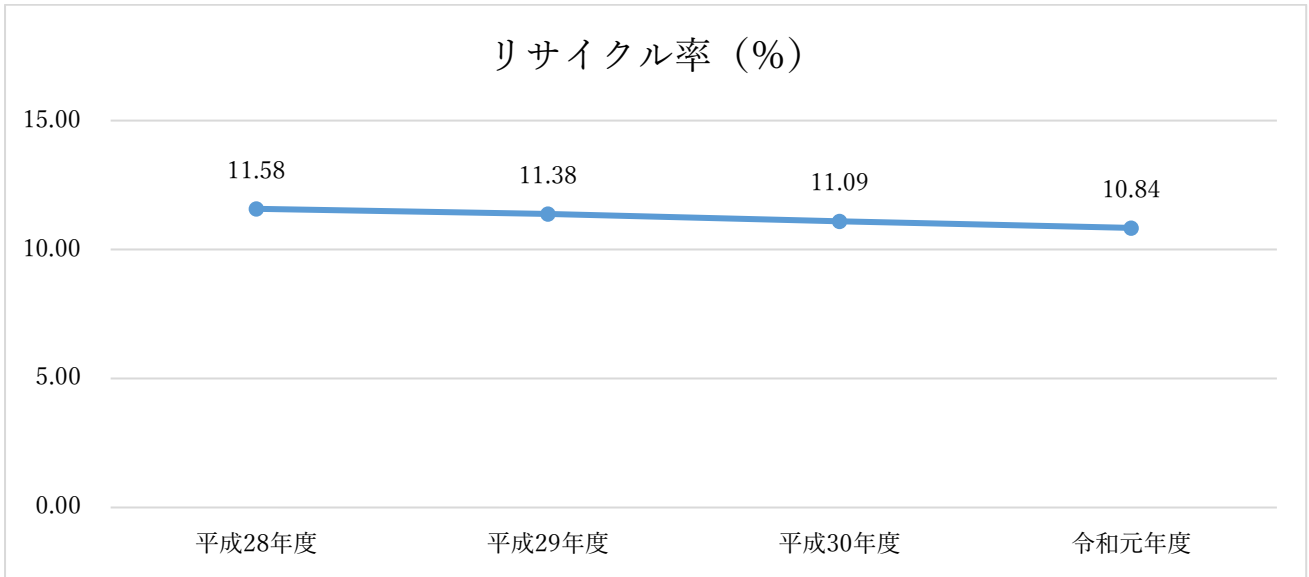
資源化量は、全体を見ると減少傾向を辿っており、令和元年度では 11,226t/年となっています。

一方、処理別に見ると、「中間処理後資源化量」は増加傾向を辿り、「直接資源化量」は減少傾向を示しています。また、資源化量については、7割以上を紙類(新聞、雑誌・雑がみ、段ボール等)が占めています。



6. リサイクル率

リサイクル率は、低下傾向を辿っており、令和元年度は平成28年度から-0.74 ポイントとなっています。

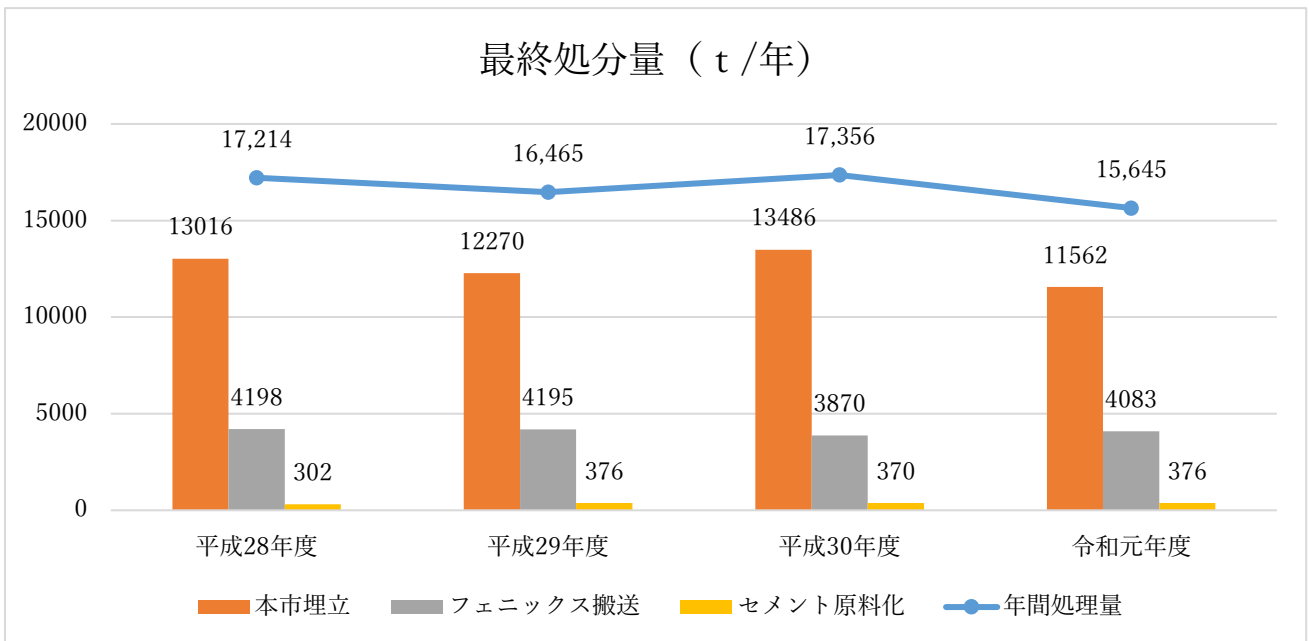


7. 最終処分量

最終処分量について、全体を見ると増減を繰り返しています。

また、大阪湾広域臨海環境整備センターとの契約に基づいた最終処分、並びにひょうご環境創造協会との契約に基づいた焼却灰のセメント原料化を行っています。

最終処分量については、9割以上を焼却灰が占めています。



備考)本市保有の最終処分場では、焼却灰、破碎選別処理後の不燃・不適物及び不燃ごみ(陶器等)の埋立処分を行っています。